

NHO フェローシップ プログラム申請書

1. 研修プログラム名：アレルギー科・呼吸器内科基礎プログラム
病院名：相模原病院

2. 診療科（専門領域）：アレルギー科・呼吸器内科

3. コースの概要

留学期間中、アレルギー・呼吸器科領域のアレルギー疾患ならびに呼吸器疾患症例を経験する。

4. 目標

total allergist として、診療科の垣根を越えた成人アレルギー疾患の鑑別を含めた診断および治療に必要な基礎知識ならびに技能の習得・生活改善・環境整備の指導方法や臨床研究を実践する上での技能の習得および呼吸器疾患診療に必要な基礎的知識・検査法・また疾患重症度に応じた治療法の基本を修得することを目的とする。

アレルギー疾患を全身疾患として総合的に診療可能な total allergist かつ内科全般に渡る基礎的臨床力を持つ呼吸器内科医となることを目標とする。内科学の専門知識と幅広い臨床能力を取得し、内科医としての全人的な育成を行う。

5. 取得手技

アレルギー疾患ならびに呼吸器疾患における各疾患の診断基準ならびに診断方法を理解し、多数の症例で実践することで、的確な診断および各疾患の活動性・重症度の基礎的判断力および適切な治療方法が修得できる。喘息診療における生物学的製剤の導入および管理を行うことができる。内科的な基本的手技を中心に各種専門的な手技（プリックテスト含めた皮膚テスト・食物や薬剤などの負荷試験・多種のアレルゲンを用いたアレルゲン免疫療法・喘息診療に必要な各種検査（気道可逆性検査・気道過敏性検査・抗原吸入試験含む）・人工呼吸管理等を含む呼吸不全管理・アレルギー性耳鼻咽喉科疾患やアレルギー性皮膚疾患・好酸球増多疾患などに関して多数の症例で経験が可能であり、技能を修得できる。

6. 研修期間 最低 1 年間

7. 募集人数 1～2 名/年

8. 診療科の実績

主要疾患	入院数（年間）
入院患者総数/年	約 1000
食物負荷試験 （成人食物アレルギー）	約 100
薬剤負荷試験（薬剤過敏 症・NSAIDs 不耐症など）	約 100
アナフィラキシー	約 30
気管支喘息	約 50
好酸球性多発血管炎性 肉芽腫症（EGPA）	約 20
アレルギー性気管支肺真菌 症（ABPM）	約 20
肺腫瘍	約 100
間質性肺炎	約 100

9. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 7名

臨床研究センターアレルギー・呼吸器科部門医師数 常勤 2名

主として研修指導にあたる責任医師 関谷 潔史（経験年数 23年）

10. コンセプト

重症気管支喘息（N-ERD・ABPM・SAFS・EGPA 含む）の診断と長期管理・アナフィラキシーの原因検索ならびに生活指導・診療科の垣根を越えて total allergist として、成人食物アレルギー、薬剤アレルギー、環境・職業アレルギー、鼻アレルギー、眼アレルギー、好酸球増多疾患（EGPA・好酸球性副鼻腔炎・好酸球性肺炎など）、慢性蕁麻疹、皮膚アレルギーなどの診断・治療および長期管理・気管支鏡検査など呼吸器疾患診療に必要な技能の習得および食物および薬剤誘発負荷試験（運動誘発含む）および多種アレルギー免疫療法（皮下注法・舌下法）ならびに I 型アレルギー疾患検索のための技能などを習得し、幅広く診療科の垣根を越えた総合的なアレルギー疾患領域ならびに呼吸器疾患診療を目指す姿勢を身につける。

11. その他（研修関連情報など）

アレルギー疾患カンファレンス（週1回）

外来患者カンファレンス（週1回）

入院患者カンファレンス（週1回）

気管支鏡検査カンファレンス（週1回）

免疫・アレルギー関連文献抄読会（週1回）

臨床研究センター研究業績発表会

（リウマチ科・小児科・皮膚科・耳鼻咽喉科合同月1回）

各種学会ならびに講演会・講習会の積極的な参加を推奨している。

国際学会含めてアレルギー・呼吸器関連学会・研究会および内科関連学会での学会発表も積極的に指導する。